

2018年 明けまして おめでとらございます

鯿の湖



辻川理事長

新年あけましておめでとらございます。皆様にはお元気に新年をお迎えの事と存じます。今年も、さまざまな活動に挑戦し事業の拡大を図ってまいりたく存じます。

ホームページは立ち上げました。今後湖北長浜の埋もれた歴史や自然文化の発掘と共に人々との関わりを中心としたガイド活動を主な柱として実施して行こうと考えています。内容として

- 1) ユネスコ無形文化遺産登録の伝統ある長浜曳山祭りや町衆の関わり方。
- 2) 日本遺産の竹生島信仰と地

NPO法人
長浜観光VG協会
電話 (65) 0370

発行責任者
辻川 原藏

編集責任者
木村 富久子

- 元の関り方
- 3) 観音の里と言われる由縁と人々の関り方
- 4) 各地で伝承される「おこない」「お祭り

5) 地元の方が気付かずにいる習慣や、その土地特有食べ物などを紹介

歴史が現在その関わりある人々により、脈々と伝承されてる事項を物語として伝えるのもガイドの役割と存じます。

「来てよかった」「もう一度来てみたい」と感じていただける「おもてなし」の心でガイドを実践することが、文化観光都市長浜の発展に繋がると信じます。今年も皆様のご活躍をよろしく願います。

辻川 原藏 記



年明けましておめでとらございます。

昨年は、会員の皆様には大変お世話になりました。皆様のご協力でも新しい年を迎えることが出来ました。感謝の気持ちで一杯です。今年度の総務部の事業計画を年度当初に掲げましたが、その目標を達成するため、悪戦苦闘しながら努力してきました。ホームページの立ち上げ、マニュアルの見直し等、難題ばかりでしたが、何とか道筋が見えてきたようです。これも、素晴らしい部員の人達のお陰と存じております。私独りでは何も出来ません。本当に幸せでした。去年の私の漢字一文字は、まさしく『忙』そのものでした。いや、『忙』のほづが、似合っているかも。

今年も、私に与えられた期間は、残すところ三ヶ月です。老体に鞭打ちながら、やり残しが無いように努力したいと思っております。どうか、あと、しばらくお支えいただけますようよろしく、お願いいたします。それと、当協会としての、チームワークの重要性を、今一度皆様と一緒に考えてみたいと思っております。



木村理事

今年の、一月の花、福寿草の花言葉でもあります幸福と長寿を願って、新年のご挨拶とさせていただきます。

総務部

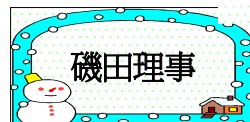
木村富久子



年頭雑感

研修部長兼業務改善推進委員長

磯田 智



あけましておめでとうございます。

最近の世の中、長浜市・滋賀県・日本はもとより米国、中国、欧州、目まぐるしく変化してきました。当協会はいかがなものでしょうか？昨年改善委員会を設立し「おもてなしの心」でお客様をお迎えすると共に、協会活動の活性化、維持・発展させるためにはいかにあるべきかの検討、答申を行ってまいります。今迄変化は感じられますか？今年には全員がより充実した満足出来る活動が行えるよう取り組んでいきたいものです。急激な変化は出来ないかもしれませんが、ひとり一人が意見を出し合い、行動に移すことが大切です。我々はボランティアでありながらも観光案内の窓口であるとの意識を持ちお客様に接すること

が必要です。ガイド知識に必要な基礎研修は相互研修も含め皆様のお力添えと協力を得ながら推進してまいります。ガイド資質の向上と共に、協会そのものにも体力をつける事も必要でしょう。今年がより充実した変化の年になりますよう皆様と共にがんばりましょう。



新年のご挨拶

ガイド部

富永洋司

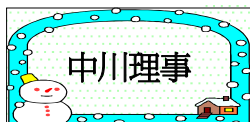


明けましておめでとうございます。皆様には良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、恒例のガイドと、新規のガイド依頼もあつて、皆様方にはご協力頂き有り難うございました。特に新規のガイドとして、「日本遺産の認定」としての、竹生島、菅浦の案内がありました。北びわ地域の、水の文化的景観・水文化の歴史としての、竹生島、菅浦は、今までとは更に向上した案内ができたと思います。又、学校の研修として、恒例の、バイオ大学、武庫川女子中学の他に、新たに神照小学校からの依頼がありました。地元の生徒だけに、長浜の歴史、文化を、熱心に案内して頂けたことと思います。

さて、先日の新聞で、県地域別の観光客は、平成28年度は、黒壁は前年度1位が2位となっていた。減少気味です。私達長浜V&Gとしては、「良かった！又来ます！」と云って、リピーターとして再び訪れてもらえるよう心掛けねばならない。又新規の神照小学校なども、毎年依頼が来るよう大切にしなければなりません。その為には、スキルアップして、「の湖」のおもいの、「真心を込めたおもてなしの心で、お客様をあたたくお迎えします」の精神をもって今年も頑張ります。



JRハイキングの取り組み



2015年7月にスタートしたJRハイキングは、今年5月初めに新メンバーを募集し、7月から14名で活動している。毎月例会を持ち、月平均2、3回のコースを企画立案。町中からびわ湖岸や姉川、横山

等へとエリアを広げている。

この2年半の間、チームメンバーの労苦は並大抵のものではなかったが、各員の闊達で前向きな取り組み姿勢が活動の源であった。その尽力に感謝するとともに、今後に大いなる期待を寄せるところである。そして、活動の柱となる「マニユアル」が出来上がった。

また、年度を追うごとにコース数は増え参加者も近畿から、東海、北陸方面へと広がりつつある。今年5月までは1コース平均15名前後あったが、この夏以降減少気味である。こうした状況を今分析中で、これから「今後の方向」を作り上げ、来年度の計画案に具体化したい。



大橋副理事長

あけまして
おめでとーいーぎょーます。

湖北地区V.G協会

合同研修会に参加して

湖北ブロック研修会感想文

三田村 等

台風一過の10月24日(火) 研修会場の山東公民館へ到着し、午前中は「水源のまち米原の日本遺産」の講演を拝聴。会場の窓一面には伊吹山がなかなかのポリウムで迫り、日本百名山の雄峰と山麓に東海道新幹線が貫く象徴的な場所。まさに日本遺産の一つ「伊吹山西麓地域」にふさわしい所での聴講となりました。

昼食の後、二班に分かれ私は、米原、醒井コーズに参加し、まず世継集落を巡りましたが七夕伝説の蛭子神社などを地元の方の説明で巡り、集落内のカナボウという霊仙からの伏流泉や洗い場をさす鉄分を含む16℃～17℃の自噴井戸が5箇所存在しており、夏は冷たく冬は暖かく人々が野菜の泥を落としたり洗濯の生活用水として使われてきたこと等を学んだ。春日神社には石田三成が関ヶ原合戦直前に戦勝祈願したと伝わるお手植えの藤が伝わっており三成の旗印の一つに下がり藤が使用されていることもあって理解できました。歴史案内版も設置されており百



聞は一見にしかずという感想を持ちました。

また、入り江干拓施設では、びわ湖では大中の湖に次ぐ県内第二の内湖であったが、戦時中に食糧増産を目的に県内をはじめ他府県からも延べ60万人の学徒動員等でおこなわれ昭和25年完成した。今日のように重機もなくすべて人海戦術の毎日で当時の労苦が偲ばれ、なかなか個人で訪れることがない施設一帯の見学ができた。いまは干拓地一帯は水田がほとんどですが、小、中学校や給食センターなど公共施設もあり現在に至っています。

中仙道67次の内61番目の醒井宿も見学し、清流の地蔵川、西行水等を巡ったが台風直後とあって濁流となって増水し通常時と異なる印象も受けた。そして名神高速道路が中仙道と並行して通じ国内の大動脈の地であることを実感した。

米原の詠み方として市名や駅名は「まいばら」「ジャンクシヨ」などと道路関係は「まいばら」ということも米原V.Gの方の説明を聞き改めて認識できました。

また、日本遺産滋賀・びわ湖とその水辺景観の中で米原は4ヶ所も指定されておりその一旦に触れ有意義な一日となりました。



詩人・堀口大學先生と

武田 豊先生

慶雲館即事

ほくも 僕の詩も

長浜の盆梅でありたい
年古りて幹枯れ朽ちて
花凜と色に香に冴え

壬寅正月

長浜客中 作

堀口 大學

と書かれた軸が毎年盆梅展では慶雲館の床の間に掛けられます。この詩を作り、書かれたのは、詩人・フランス文学者で昭和54年に文化勲章を受章された堀口大學先生（以下大學先生）（故人）であることをご存知の通りです。冒頭の「慶雲館即事」と末尾の字句より昭和37年（壬寅11ミスノエトラ）1月に大學先生が盆梅展に来られ、作られたこと

が分かります。

昭和37年は、盆梅展が始まって十一年目とは言え、まだまだ広く知られてない時代ではなからうか？また、新幹線が走ってない時代に、わざわざ忙しい大學先生が東京から来られたのは、何か別に目的があったのか？このような疑問を持ち何年前かに調べました。

過って黒壁ガラス館の少し東に「らりるるる書店」と言う古本屋があったのをご存知の方も居られると思うが、その店主が近江詩人会代表を長く務められた「詩人・武田豊先生」（以下武田先生）（故人）です。昭和37年1月、武田先生の詩集『ネジの孤独』出版記念会が長浜市役所を借りて催され、当時の市長金沢氏を始め地元の方々も大勢出席され大盛況でした。この祝賀会に大學先生が東京から駆けつけられ、盆梅展を楽しまれたあと、平田旅館にて揮毫され長浜市に贈られました。両先生の子弟の縁について、武田先生は次のように書かれています。

『昭和9年4月（26歳）詩への志望を抱いて出京。（中略）この頃堀口大學先生を小石川茗荷谷と江戸川アパートに二、三度お伺いし大変あたたかい心を受けたのを今も忘れえない』別の思い出

NPO法について

NPO法人の解散・合併

NPO法人とは国から非営利活動法人として認可を受けた組織です、解散・合併する場合は総会での議決・所轄庁の認証等の一定の手続きを経て、解散又は別の特定非営利活動法人との合併を行なうことができます。その場合、残余財産は、定款で定めた者（当協会は長浜市）に帰属しますが、その定めがない場合は、国又は地方公共団体に譲渡するか、最終的には、国庫に帰属することとなります。

話として、『まさに浮浪者の風体で、突然訪問したにもかかわらず、堀口さんは、詩を書く仲間として快く応対され、帰り際に下さった赤いリングのみごとであったこと』

武田先生は明治42年東浅井郡竹生村（現長浜市）で生まれ、前記のごとく上京されたが、昭和11年頃お母様の病気のため帰郷。戦中戦後の6年、ほど中日新聞記者をされるが、視力・聴力共に悪くして退職、昭和25年頃前記書店を開業、近江詩人会創始者の一人として活躍され。主な著作に「ネジの孤独」「長浜の灯」「晴れ着」「指を憎む」などがあります。

昭和63年没。

（参考資料）

「湖国と文化」第35号他

武田先生の詩集は長浜市立図書館に在ります。

馬場 智章